

フォーラムニュース Vol.8 2019 11/1

発行：フォーラム・子どもたちの未来のために実行委員会

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

文責／大竹永介

【シンポジウム「私たちの時代 私たちの表現」続報】

2020/2/1 神保町出版クラブにて 開催！

前号でお知らせしましたように、フォーラムの次回イベントはシンポジウム「私たちの時代 私たちの表現」と決定いたしました。登壇者は小手鞠るいさん、古内一絵さん、森絵都さんの3名。場所は神保町の出版クラブ。13時半開場、14時開演の予定です。司会進行はフォーラムの実行委員でもある野上暁氏です。申し込みの方法等の詳細については次号にてお知らせいたします。

【登壇者紹介】（敬称略）

- 小手鞠るい 1956年岡山県生まれ。同志社大学卒。『ある晴れた夏の朝』（偕成社）で今年度小学館児童出版文化賞を受賞。アメリカ在住。
- 古内一絵 1966年東京生まれ。日大芸術学部卒。『快晴フライング』（ポプラ社）でデビュー。『フラダン』（小峰書店）で第6回JBBY賞を受賞。中国語の翻訳でも活躍。
- 森絵都 1968年生まれ。早稲田大学卒。『つきのふね』（講談社）で野間児童文学賞、『風に舞いあがるビニールシート』（文芸春秋）で直木賞を受賞。

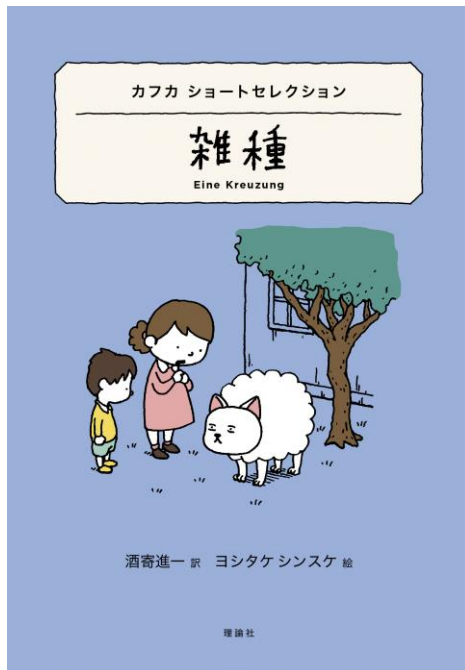
《実行委員のおススメ・この1冊》

★1回お休みさせていただいた、フォーラム実行委員が薦める「この1冊」。今月は元福音館編集者澤田精一の「おススメ」、世界文学の古典からの1冊です。

『変身』フランツ・カフカ（光文社古典新訳文庫他）

カフカの『変身』は、朝、グレゴール・ザムザが目覚めると“虫”になっていたという話で、説明するまでもない有名な小説ですが、ではこの“虫”は本当に虫だったのかと疑問をもつと、途端に話は怪しくなります。なぜなら「たくさんの脚が…」という描写があるでしょう。虫だったら脚は6本のはずです。そして目を閉じたり、咳払いをしたり、涙をためたり、するんです。そんな虫はいないはず。さらによくいわれるゴキブリに変身したとしたら、ベッドにいるのは一匹のゴキブリで

あって、グレゴールではありえない。家族それからグレゴールを見た人たちが恐れ



たのは、虫ではなく、グレゴールだとわかる何かが残っている、“虫”ともいえない“虫”のような動くものがいたからです。だから目を閉じたり、咳払いをしたり、涙をためることができた。そう思うと、この作品は非常にグロテスクな世界になっていきます。さらに、人間が“虫”になったこの事件を語っている人は誰でしょう。もしかしたらこの一件は誰かわからない人が勝手に語ったのか。そうだとすれば、これは架空の話だったのか。

このような謎に満ちた作品を、何故カフカは書いたのでしょうか。そう思うと、『変身』だけではなく、他の作品も読みたくなってき

ます。他の作品を読み進め、そしてカフカの生涯を知っていく、疑問を解くための読書。それは文学を深く知るもうひとつの方法です。たくさんの本を読むことも大事ですが、このように疑問をもちながら、その疑問を解くために読むというのはとても意味のあることだと思います。

なお、「変身」については、絵本『変身』（酒寄進一・翻案、牧野良幸・絵、長崎出版）がありますが、現在、絶版です。それよりも、じかにカフカの文章にふれて欲しいということで、丘沢静也・訳『変身』（光文社古典新訳文庫）をお勧めしておきます。そして、もっと短くて不思議な物語を集めた『雑種 ショートセレクション』（理論社）もあわせて紹介しておきます。

（澤田精一・フォーラム実行委員）

●「フォーラムニュース」の8号をおとどけいたします。度重なる台風等の災害のニュースには心痛みますが、皆様のところはご無事だったでしょうか。被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。●前号で速報しました来年2月1日のシンポジウム。次号で詳しい申し込み方法等をご案内いたします。ご期待ください●気の滅入るような出来事ばかりのこの頃ですが、最近私が最もショックを受けたのは、神戸の小学校での教師間いじめ問題。その内容のおぞましさはいうまでもありませんが、こうしたことを平然と行えるような人間が教師の資格を得て子どもと接している社会とは、もうすでに取り返しのでないところまで劣化してしまっているのではないかと暗澹たる気持ちになってきます●フォーラムへのご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマ、ご希望などは f.kodomo.mirai@gmail.com までお送りください。また、配信停止のご希望も同じアドレスまでお願いいたします（大竹）